

# ASBJ Newsletter



## 目次

1. 企業会計基準委員会の概要（第210回～第213回）
2. IASBに対するASBJのコメント（2010年10月1日～2010年11月30日）
3. ASBJプロジェクト計画表の更新
4. AOSSGの活動状況
5. IASB第29回基準諮問会議を開催
6. ASBJオープンセミナー【第7回～第8回】（IFRS日本のとるべきスタンス）を開催
7. FASF第11回基準諮問会議を開催
8. プロジェクト進捗（2010年12月16日現在）。
9. お知らせ

《ご注意》本文中のハイパーリンク先につきましては、一部、財務会計基準機構の会員限定サイトとなっており、一般の皆様にはご覧頂けないこともございます。あらかじめご了承ください。

## 1. 企業会計基準委員会の概要(第210回～第213回)

### 1) 第210回(2010年10月7日開催)

- a. 四半期会計基準の改正に関する検討(参考人意見聴取)
- b. 退職給付専門委員会における検討状況
- c. 収益認識専門委員会における検討状況

- a. 市場関係者から四半期報告制度に関する現状と簡素化に対する意見を聞くため、作成者、利用者、監査人及び学者の参考人から、それぞれの立場からの説明と質疑応答が行われました。

作成者からは、実務負荷等、現状の四半期報告の問題点の指摘が行われた後、①累積期間による開示、②第1及び第3四半期の大幅簡素化(キャッシュ・フロー計算書の廃止等)といった提案が行われました。

利用者からは、アナリストを対象に実施されたアンケート結果をもとに説明が行われ、減価償却費や減損損失、固定資産の取得額といったキャッシュ・フロー計算書でしか入手できない情報が何らかの形で入手できるのであれば、第1・第3四半期のキャッシュ・フロー計算書を廃止しても問題はない等、運用上の対応可能性についてのコメントがありました。

この他、学者からは四半期開示制度が情報の非対称性を減少させること、株式の流動性を高めることといった実証研究の報告が、監査人からはレビュー可能性、考えうる簡素化項目等についての説明が行われました。

- b. ステップ1をこのまま進めるべきかについての意思確認が行われました。

意思確認の結果、複数回の改正による実務負荷というデメリットはあるものの、財務報告の早期改善、コンバージェンスの着実な推進といったメリットを考慮し、ステップ1の最終基準化を進めることが合意さ

れました。

- c. IASB 公開草案に対するコメント案の検討が行われました。基本的に収益認識基準に対する取組みについては支持するものの、支配の移転の判断、信用リスクの取引価格(収益)への反映、品質保証としての製品保証の取扱いについては、原案への懸念が示されました。

### 2) 第211回(2010年10月21日開催)

- a. 金融商品専門委員会における検討状況(公正価値測定)
- b. 金融商品専門委員会における検討状況(金融負債)
- c. 四半期会計基準等の改正に関する検討
- d. 収益認識専門委員会における検討状況
- e. IASB 公開草案「保険契約」の対応

- a. 平成22年7月9日に公表された公開草案「公正価値測定及びその開示に関する会計基準(案)」等に対するコメントの紹介と今後の対応についての審議が行われました。それぞれのコメントを分析し、更なる検討が必要な論点、追加的なガイダンスを必要とする項目、IASBでも再度検討が行われるため、その動向によっては再検討する必要のある項目に分けられ、今後の対応が図られます。

- b. 金融負債に係る検討が委員会で初めて取り上げられました。

現在、IASBは、金融負債に係る会計基準の改定作業を進めており、10月に最終基準化がなされました。

こうした状況を踏まえて、委員会でも金融負債の分類及び測定についての検討を開始することとし、金融商品会計基準改正の方向性を見極めるための検討状況の整理を平成23年第1四半期中に公表する方向で検討を進めることが提案されました。

- c. 四半期財務諸表の簡素化の具体的な検討

として、「損益計算書は、四半期会計期間（3か月）の情報か期首からの累計期間の情報のいずれを開示するか」、「第1及び第3四半期のキャッシュ・フロー計算書の作成、開示を省略することができることとするか」及び「注記事項の見直しにあつての基本的な考え方と考えられる項目」等についての審議が行われました。

- d. 収益認識に関する IASB 公開草案に対するコメント文案の最終検討が行われました。
- e. 保険契約に関する IASB 公開草案に対するコメントの検討が開始されました。

### 3) 第212回（2010年11月5日開催）

- a. 四半期会計基準等の改正に関する検討
- b. 収益認識専門委員会における検討状況
- c. リース会計専門委員会における検討状況
- d. IASB 公開草案「保険契約」の対応

- a. 四半期損益計算書で開示する期間を期首からの累計期間とするか四半期会計期間（3か月）とするか、第1及び第3四半期のキャッシュ・フロー計算書の作成・開示を省略できることとするか、注記項目の削除検討の論点についての審議が行われました。

第1及び第3四半期でのキャッシュ・フロー計算書の開示については、省略の方向で、今後、注記事項として開示を求める非資金項目等の範囲が検討されることとなります。

- b. IASB/FASB が6月に公表した収益認識に係る公開草案を踏まえた我が国論点整理の検討が行われた。
- c.～d. IASB 公開草案に対するコメントの検討が行われました。

### 4) 第213回（2010年11月18日開催）

- a. 四半期会計基準等の改正に関する検討

- b. 収益認識専門委員会における検討状況
- c. リース会計専門委員会における検討状況
- d. 特別目的会社専門委員会における検討状況
- e. IASB 公開草案「保険契約」の対応

- a. 公開草案の文案の形式での検討が行われました。

四半期損益計算書で開示する期間については、期首からの累計期間の情報の開示を求めることを基本とし、四半期会計期間（3か月）の情報の任意開示も認めています。

前回の委員会では、①四半期会計期間の開示を任意で行う場合のセグメント情報、一株あたり利益及び著しい季節的変動に係る注記、②累計期間のみ開示する場合の売上高、利益金額及び一株あたり利益といった3か月情報の開示を行うかといった議論がありましたが、前者は任意開示とし、後者は利用者自ら算定可能であることから開示を求めない方向です。

- b. 論点整理の検討が行われました。収益の範囲と製品保証や返品権付製品販売、収益の総額表示と純額表示といった各論の検討が行われました。
- c. IASB 公開草案に対するコメントの検討と、我が国論点整理の検討が並行して行われました。
- d. いわゆる開発型特別目的会社の連結に関する公開草案のコメント紹介とその検討が行われました。コメントには、IASB での審議状況を踏まえ、この時期に急いで改正する必要はないというものが多く含まれています。
- e. IASB 公開草案に対するコメントの最終検討が行われました。

## 2. IASB に対する ASBJ のコメント (2010年10月1日～2010年11月30日)

- 1) [IASB 公開草案「顧客との契約から生じる収益認識」に対するコメント](#)を提出 (2010年10月22日)
- 2) [IASB 公開草案「保険契約」に対するコメント](#)を提出 (2010年11月30日)

## 3. ASBJ プロジェクト計画表の更新

企業会計基準委員会 (ASBJ) は、12月17日 2011年未までのスケジュールを記載したプロジェクト計画表の更新を公表いたしました。

今回の更新は、昨今の基準開発状況と国際会計基準審議会 (IASB) のワーク・プランの更新 (2010年11月29日付) を踏まえたものであり、主として、2010年第4四半期に公表予定であったプロジェクト項目の当面の予定を更新したものとなっています。

## 4. AOSSG の活動状況

### 1) AOSSG のウェブサイトの開設

アジア・オセアニア会計基準設定主体グループ (AOSSG) は、メンバー間の効果的かつ効率的なコミュニケーションを可能とするとともに、アジア・オセアニア地域の外部関係者の AOSSG に対する認知度を高めること等を目的とし AOSSG のウェブサイトを開設し、11月4日から公開されています (<http://www.aoss.org/index.php>) 。

AOSSG は本ウェブサイトを通じて、AOSSG の作業グループの活動や、AOSSG から IASB へのコメントレター等を含め、アジア・オセアニア地域における会計基準の論点について、適時に情報を更新してい

く予定です。

### 2) 議長諮問委員会の発足

AOSSG は、11月4日付で来年の年次会合までの期間を対象として、議長諮問委員会 (以下「諮問委員会」という。) を設置することを公表しました。これは、AOSSG の議長及び副議長の組織運営を補助するとともに、AOSSG の運営の継続性を維持することを目的とするものです。

諮問委員会は、AOSSG の8つの国又は地域のメンバー (日本、オーストラリア、中国、韓国、香港、インド、マレーシア、シンガポール) で活動を開始し、AOSSG の議長である西川郁生 ASBJ 委員長が諮問委員会の議長も務めることとなりました。

諮問委員会は、AOSSG の運営を補助するに当たって、議長又は副議長が提起した問題に対応するとともに、会議の議題や作業グループが検討する論点について提言を行う他、特別会議を招集するかどうかについて議長に助言を行うこと等を行うこととしています。

## 5. IASB 第 29 回基準諮問会議を開催

IASB の第 29 回 IFRS 諮問会議 (以下、「諮問会議」という。) が 2010年11月3日と4日の両日にわたり、ロンドンで開催されました。日本からは、諮問会議メンバーである金子誠一社団法人日本証券アナリスト協会理事、米家正三伊藤忠商事株式会社常勤監査役 (経団連を代表)、オブザーバーとして金融庁より園田周企業開示課課長補佐が出席しました。スケジュール及び議題は以下の通りです。

日時	議題
11月3日 10:10-11:50	・ 諮問会議議長及び副議長より前回諮問会議以降4ヶ月間のアップデート ・ IASBのDavid Tweedie議長より、IASB作業計画のアップデート
11:50-12:45	2011年後の作業計画についての意見聴取
13:40-14:15	モニタリング・ボードによるIFRS財団のガバナンス改革について
14:30-16:45	Cross-Cutting Issues (基準横断的な不整合の問題)の取り扱いについて—グループ・ディスカッション
16:45-17:30	IFRS第2号「株式報酬」に関するリサーチ・プロジェクトについて
11月4日 9:10-10:30	トラスティーとの会合
10:55-11:40	Cross-Cutting Issues (基準横断的な不整合の問題)の取り扱いについて—全体発表
11:40-12:50	諮問会議のパフォーマンス評価
12:50-13:10	新基準開発の手順・タイミングの再考

今回会議の主要テーマは、Cross-Cutting Issues (基準横断的な不整合の問題)の取り扱いについてでした。諮問会議メンバーは、4つのグループに分かれ、基準間の不整合の取り扱いについて議論を行い、各グループに共通の見解は、以下の通りでした。

(1) 重大な不整合と思われる事例

- ・ その他の包括利益 (OCI) のリサイクルの可否

- ・ 支配の概念の違い (連結、収益認識、認識の中止など) 他

(2) 概念フレームワークの不備

基準間の不整合の多くは、概念フレームワークが不十分であることに起因するため、IASBは概念フレームワークのプロジェクトの優先順位を上げてこれに取り組むべきである。

(3) 許容可能な不整合について

過去からの基準開発の経緯や、それぞれの基準がカバーするビジネスモデルの違い等から、基準間の不整合は生じており、これらすべてを解消することは現状では不可能なことは理解できる。ここで、非常に重要なことは、不整合を含む基準を審議会が承認した理由を、特定のプロジェクトの背景・事情からだけでなく、概念フレームワークからの乖離や他の基準との不整合がどのような意図で解消されないのかといった観点から、結論の根拠等の中で十分に説明することである。

また、金融庁の園田周企業開示課課長補佐からは、現在、国際財務報告基準財団 (IFRS 財団) モニタリング・ボードが進めているIFRS財団のガバナンス改革についての説明がありました。

## 6. ASBJ オープン・セミナー【第7回～第8回】(IFRS 日本のとるべきスタンス)を開催

ASBJ/FASFでは、国際的な会計の動きを迅速にフォローできるASBJならではの最新情報の提供を行い、国際財務報告基準 (IFRS) 導入に向けての環境整備に貢献すること、及びFASF会員へのサービス向上を目的として、本年度よりASBJ オープン

ン・オープンセミナー：「IFRS の動向と我が国への導入」を全国主要都市にて開催しています。

今回は「IFRS 日本のとるべきスタンス」をテーマに、IFRS 財団 Trustee として IASB の運営に日本を代表して参加されている住友商事特別顧問、IFRS 対応会議国際対応委員会委員長である島崎憲明氏から「IFRS 導入に向けての課題～企業経営に与えるインパクト～」についてお聞きし、更には IASB ワーク・プランの見直しに伴う ASBJ のプロジェクト計画表の見直し、IASB/FASB の MoU 項目であり、公開草案が IASB より公表されている収益認識とリースについても担当者からご説明する内容で、11月2日東京（よみうりホール）、11月4日大阪（大阪銀行協会）で開催いたしました。2会場合計で1300名を超える聴講者が来場されています。ちなみに東京会場におけるプログラムは以下のとおりです。

第7回 11月2日東京（よみうりホール）

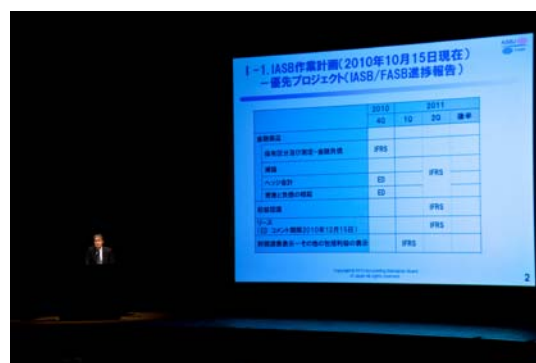
講演タイトル	講演者
IFRS 導入に向けての課題～企業経営に与えるインパクト～	島崎憲明 住友商事特別顧問、IFRS 財団 Trustee、IFRS 対応会議国際対応委員会委員長
ASBJ の活動状況	西川郁生 ASBJ 委員長
IASB の基準開発の動向（収益認識、リース）	加藤厚 ASBJ 副委員長

講演の中で島崎 Trustee から、10月にソウルで行われた IFRS 財団の Trustee 会議の様などを交えながら、IFRS 導入に向けた議論の経緯や最近の動向、特に IASB の基準開発に対する日本からの積極的な意見

発信が必要であること等、事例を交えながら分かりやすくお話いただきました。



西川委員長からは、ASBJ の活動状況について、9月に更新した ASBJ プロジェクト計画表を中心に、背景となる IASB 作業計画の状況にも触れながらお話いただきました。



最後に、加藤副委員長から、IASB が進めているプロジェクトの中で公開草案が公表された「顧客との契約から生じる収益認識」、「リース」について、提案されている議論の背景や特徴、日本基準との相異点など、分かりやすく解説しました。

なお、第7回東京会場におけるセミナーの様子は、FASF会員の皆様には [ASBJ Web セミナー](#)にて映像とともにご覧頂けます（2011年2月25日までの期間限定配信となります）。

## 7. FASF 第 11 回基準諮問会議を開催

2010 年 11 月 11 日、[第 11 回基準諮問会議](#)が開催されました。会議では、ASBJ の最近の活動状況についての報告の後、IASB のプロジェクトの遅れ及び四半期財務諸表の簡素化に向けた検討状況について意見交換が行われました。

その後、国際対応活動として、9 月に開催された第 2 回 AOSSG 会議、各国基準設定主体 (NSS) 会議、2010 年世界会計基準設定主体 (WSS) 会議について説明が行われました。

続いて 2010 年度アンケート調査結果について川村委員 (早稲田大学商学大学院教授) より説明があり、公会計やアンケートの公表方法等について意見交換が行われました。

最後に財務会計基準機構 (FASF) 内に「単体財務諸表に関する検討会議」を設置したことを報告し、議論の状況等について意見交換が行われました。

8. プロジェクト進捗（2010年12月16日現在）

	2010 Q4	2011 Q1	2011 Q2	2011 Q3	2011 Q4
<b>既存の差異に関連するプロジェクト項目</b>					
企業結合（ステップ2）		ED	Final		
無形資産		ED	Final		
<b>IASB/FASBのMoUに関連するプロジェクト項目</b>					
1 連結の範囲			ED		
2 財務諸表の表示 （フェーズB関連） （非継続事業）				ED	
3 収益認識		DP		ED	
4 負債と資本の区分					
5 金融商品 （金融資産の分類と測定）				ED	
（金融負債の分類と測定） （減損）		DP2		ED	
（ヘッジ会計）				ED	
6 公正価値測定・開示			Final		
7 退職給付 （ステップ1） （ステップ2）		Final			
			DP		ED
8 リース	DP			ED	
9 認識の中止		DP		ED	
<b>IASB/FASBのMoU以外のIASBでの検討に関連するプロジェクト項目</b>					
引当金					
排出権					
保険					
<b>IASB/FASBの検討項目以外の項目</b>					
特別目的会社		Final			
四半期	ED	Final			
後発事象		ED	Final		

\*：既存の差異等に関する改正

[適用]

- DP 論点整理
- DP2 検討状況の整理（会計基準等の方向性を示すことを目的に公開草案の前に文案に近い形で公表するもの）
- ED 公開草案
- Final 会計基準/適用指針（最終版）

斜体文字は終了したイベントを表しています。



## 9. お知らせ

### 1) 刊行物のご案内

機関誌「季刊 会計基準」第 31 号 (2010 年 12 月 15 日刊行)

#### 【主な内容】

- ✓ 特集 1: 第 2 回アジア・オセアニア会計基準設定主体グループ (AOSSG) 会議レポート
  - AOSSG 議長国となって…西川郁生 ASBJ 委員長 他
- ✓ 特集 2: IASB 公開草案「顧客との契約から生じる収益」を読み解く
- ✓ Accounting Square: “IFRS 導入の準備体制” …山崎彰三 日本公認会計士協会会長
- ✓ CFO Letter: “IFRS 導入に向けて” …清水明彦 株式会社セブン&アイホールディングス執行役員経理部シニアオフィサー
- ✓ Chairman’s Voice: “第 2 回 AOSSG 会議の周辺で” …西川郁生 ASBJ 委員長
- ✓ 特別企画: 基準諮問会議 (SAC) レポート“基準諮問会議アンケート調査結果の概要”…川村義則早稲田大学商学学術院教授

※ご購入は[こちら](#)。

※FASF 会員の皆様には、季刊会計基準に掲載される記事が[ホームページ\(会員専用サイト\)](#)よりご覧になることができます。どうぞご利用ください。

### 2) [ASBJ オープン・セミナー: IFRS の最新動向と我が国への導入\(第 9 回~第 11 回\)](#)のご案内 (2011 年 1 月初から募集予定)

ASBJ では、本年度より IFRS 開発の最新動向や IFRS 導入に向けての我が国の活動状況に関する情報を提供するセミナ

ーを全国各地にて開催致します。最近の開催予定は次のとおりです。

- 第 9 回 (東京):
  - 2011 年 1 月 24 日 (月) 12 時 30 分~15 時 30 分
  - (会場) よみうりホール
  - (主な講師) Stephen A.Zeff 米ライス大学教授, 山田辰己 IASB 理事, 西川郁生 ASBJ 委員長 他
- 第 10 回 (大阪):
  - 2011 年 2 月 18 日 (金) 13 時~16 時
  - (会場) 大阪銀行協会
  - (主な講師) 新井武広 ASBJ 副委員長 他
- 第 11 回 (名古屋):
  - 2011 年 2 月 25 日 (金) 13 時~16 時
  - (会場) デザインホール
  - (主な講師) 都正二 ASBJ 常勤委員 他

皆様のお越しを心からお待ち申し上げます。なお、第 9 回の模様は後日 [ASBJ Web セミナー \(会員専用サイト\)](#) にも掲載する予定です。

#### “ASBJ Newsletter” (第 18 号)

2010 年 12 月 20 日発行

発行: 企業会計基準委員会 /

公益財団法人 財務会計基準機構

東京都千代田区内幸町 2-2-2

富国生命ビル 20 階

編集・発行人: 下村昌作

制作: 広報プロジェクトチーム

禁無断転載

※ご意見・ご要望は下記までお寄せください。

E-mail: [publicity@asb.or.jp](mailto:publicity@asb.or.jp)

Fax: 03-5510-2712